



けんとうし はいし 遣唐使は、なぜ廃止されたの



国内の災害、唐の内乱^{ないらん}などから、一時的に停止し、そのままになってしまったようだよ。

すがわらのみちざね
菅原道真^{すがわらのみちざね}があげた、遣唐使^{けんとうし}の派遣^{はけん}を再検討^{さいけんとう}してもらう理由

894年8月21日、菅原道真が、遣唐使の大使に任命されました。ところが、1か月もたない9月14日、道真は宇多天皇に、「遣唐使を派遣^{うだてんのう}するかどうか、公家^{くげ}たちに、もう一度^{けんとう}検討^{けんとう}してもらってください」と願い出ました。再検討^{けんとう}してもらう理由としては、次の二つをあげました。前年3月に、唐にいる僧^{そう}から送られてきた報告によれば、唐の国のおとろえがはなはだしいこと。今までの例^{そう}からみて、唐にわたる航海^{きけん}が、たいへん危険なこと。

菅原道真は、こんな内容の手紙を書いていた

遣唐使の任命より1か月前の7月22日に、太政官^{たじょうかん}から、唐にいる僧へ、手紙が出されています。書いたのは、道真です。そこには、「すでに遣唐使を派遣^{けんとう}することが決まったが、近年は災害が続いたりして、準備がはかどらないので、先にのびるかもしれない」と書いてありました。

一時的に停止したら、その後も再開されなかった

9月30日に、遣唐使の派遣を停止することが、発表されました。なぜ、急に停止が決まったかについては、遣唐使の停止は、最初から決まっていたが、遣唐使の肩書き^{かたが}をもつのは名誉^{めいよ}なことであるから、任命だけ行われた、内乱が続いている唐の政治的な問題に、日本が巻きこまれるのをおそれた、などの説があります。いずれにしても、国内の災害、唐の内乱^まといった、当事の国内・国外のようすが、貴族^{きそく}たちの考えを変えさせて、遣唐使を一時的に停止したら、その後も再開されなかった、ということのようです。